

＜第2次名張市農業マスタープラン 施策の数値目標・実績（概要）＞

将来像	基本施策	取組み目標	平成 18 年 (2 次プラン基準年)	平成 27 年度 目標数値	平成 28 年 (H28.9 末 現在)	増減 (平成 18 年 との比較)	経緯・評価等	
多彩な担い手に魅力ある “なばり農業”	多彩な担い手の育成・確保	認定農業者数	43 人	65 人	47 人	4 人	数値の内容：市が認定した認定農業者数 経緯・現状：平成 24 年度から書類審査に加え面接を実施し、認定農業者の質の向上を図っている。 評価：若手認定農業者が増加しつつあり、また、審査の厳格化を図っている中で、4 人増加していることは評価できる。	
		新規就農者数	—	15 人	26 人	26 人	数値の内容：平成 18 年度からの累積人数。認定有・無含む。法人就職者除く。 経緯・現状：平成 26 年度から市の認定制度が開始。 評価：関係機関との連携を深めるとともに、就農前の研修期間及び経営が不安定な就農直後における支援体制を強化することで、就農定着がしやすい環境整備を図り、新規就農者が増加したものとする。	
		家族経営協定締結数	1 家族	3 家族	15 家族	14 家族	数値の内容：市内の家族経営協定締結数 経緯・現状：協定締結により認定農業者申請時、農業者年金の保険料助成等のメリットがある 評価：有益なメリットもあり、協定締結数が目標数値を上回った。	
		集落営農組織	1 組織	3 組織	4 組織	3 組織	数値の内容：市内で組織化された集落営農組織数 経緯・現状：現在、法人化された組織は無い 評価：組織数は、目標数値を超えたものの、農地の多い北部地区に集中している。法人化が今後の課題。	
		青空市グループ	6 グループ	10 グループ	9 グループ	3 グループ	数値の内容：青空市 7、直売所 2（青空ネット伊賀） 経緯・現状：2 箇所（JA 伊賀南部「ほのぼの市場」、とれたて名張交流館）の直売所がオープン。 評価：直売所が 2 箇所オープンし、地元農産物を安定して販売できる拠点となっており、地産地消に貢献している。	
	農業生産基盤の確立	農地の利用集積面積	90ha	400ha	136.12ha	46.12ha	数値の内容：農業委員会の全利用権設定面積(担い手、その他への設定全て含む) 経緯・現状：集積率約 8.7%、担い手(認定農業者・新規就農者)への集積 80ha 評価：農業委員会と連携し、「人・農地プラン」(全体 1・地区 3) の策定や認定新規就農者の認定等により、農地の利用集積を推進した。目標値には届かないが、着実に集積を図っており、耕作放棄地の減少等に寄与している。	
		老朽ため池整備箇所数	21 箇所	28 箇所	21 箇所	±0 箇所	数値の内容：機能向上的改修を実施した箇所 経緯・現状：日常的な補修等は、随時行っている。 評価：財政的な問題等でハード面の整備は進んでいないが、ため池ハザードマップの作成等ソフト面での対策を実施した。	
		農業集落排水計画処理人口	9,191 人	15,970 人	15,790 人	6,599 人	数値の内容：各地区の事業採択時の人口。 経緯・現状：処理済 10/11 区。残りは、比奈知地区(H30 年度供用開始予定)のみ。 評価：平成 30 年度に全地区の整備が完了予定。ほぼ目標数値を達成している。	
	食と「農」のネットワークづくりをめざす “なばり農業”	豊かな食生活づくり	ファーマーズマーケットの整備	—	1 カ所	3 カ所	3 カ所	数値の内容：JA 伊賀南部ファーマーズマーケット「ほのぼの市場」、とれたて名張交流館、隠物産市場 経緯・現状：JA 伊賀南部、とれたて名張交流館運営協議会、名張市物産振興会が運営。 評価：地元農産物を安定して販売できる拠点となっており、地産地消に貢献している。
		「農」とのふれあいの場づくり	観光農園入込客数	56,390 人	70,000 人	55,057 人	△1,333 人	数値の内容：青蓮寺湖観光農園の入込客数 経緯・現状：若干減少している。 評価：青蓮寺湖観光農園の入込客数は若干減少しているが、他の風農園のイチゴ狩りや手づくり農園の芋ほり体験等も行われている。
農産物オーナー制度実施農家数			—	20 戸	0 戸	±0 戸	数値の内容：農産物オーナー制度を実施した農家数 経緯・現状：現在までのところ、本制度は実施していない。 評価：行政主導で制度を立ち上げることが難しかった等の理由が推測される。	
園芸福祉ボランティアの登録者数			147 人	300 人	835 人	688 人	数値の内容：園芸福祉サポーター養成講座の受講者数。 経緯・現状：平成 25 年度以降は講座を実施していない。 評価：現在、園芸福祉ボランティアの会等が自立して活動していただいている。	

将来像	基本施策	取組み目標	平成 18 年 (2 次プラン基準年)	平成 27 年度 目標数値	平成 28 年 (H28.9 末 現在)	増減 (平成 18 年 との比較)	経緯・評価等
快適な生活環境を市民とともに つくりだす “なばり農業”	市民のやすらぎの場づくり	農業公園の整備	—	1カ所	0箇所	±0箇所	数値の内容：農業体験施設、ミュージアム等を備えた農業公園 経緯・現状：現在までのところ、整備していない。 評価：当時、農業公園整備の構想が持ち上がったが、具体化には至っていない。
		市民農園の設置数	5カ所	10カ所	5カ所	±0箇所	数値の内容：比奈知地区、南古山地区で5カ所開設 経緯・現状：平成18年度以降、新たに開設はしていない。 評価：全158区画のうち、117区画が利用されており、契約率74%、新規契約者約10名と、安定的に利用して頂いている。
		針葉樹と広葉樹の混交林化面積	46ha	100ha	120ha	74ha	数値の内容：市内の森林環境創造事業(県単・市町タイプ)実施面積 経緯・現状：毎年実施しているが、近年、国の予算が縮小傾向にある。 評価：国県の補助金を受けて毎年着実に実施し、目標数値を達成した。
	環境にやさしい農業の推進	エコファーマー認定者数	2人	10人	0人	△2人	数値の内容：三重県による認定者数 経緯・現状：現在、認定者はなし。 評価：三重県の認定委員会を経て知事の認定をうける必要があり、認定のハードルが高い割に受けるメリットが少ないため、現在0人となっているものと考えられる。 (環境保全型農業直接支払交付金は、認定の特例措置で受けられる。)